

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和5年度学校評価 中間評価

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	佐賀市立北山東部小学校
-----	-------------

1 前年度 評価結果の概要	<p>・すべての項目で十分達成、おおむね達成となった。業務改善委員会の開催や職員のタイムマネジメントを向上させることで、働き方改革や業務改善の推進を図ることができ、教育の質の向上につながった。・次年度は、以下4点の改善・充実に取り組む。</p> <p>①「学習課題づくり」に重点を置きながら、「ふりかえりの視点」を生かして、教師の授業改善と児童の学力向上を目指す。「進んで学習」②一人一人に出席・役割を与えることで、何事にも挑戦する態度を養う。「心と体を鍛えて何事にもチャレンジ」</p> <p>③全ての教育活動を通して人権教育の充実させ、児童の他者への思いやりの心を育成する。「自分も友達も大切に」④地域、保護者、学校職員で、取組の継続・改善の議論を重ね、コロナ禍後の山村留学の新しい形を定着させていく。</p>
------------------	---

2 学校教育目標	郷土を愛し、心豊かで心身共にたくましく、生き生きと学ぶ東部っ子の育成
----------	------------------------------------

3 本年度の重点目標	<p>①めあてをもって主体的に学習し、自分の考えを進んで発信する児童の育成</p> <p>②健やかな体と心を持ち、前向きに何事にも挑戦する児童の育成</p> <p>③自他や郷土の良さを知り大切にするとともに、相手を思いやり、共に生きようとする児童の育成</p>
------------	--

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価	主な担当者
---------------	------	--------	-------

(+B16:F191)共通評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	○主体的な学び手を育成する授業の実践 (主体的・対話的で深い学びの実現に向けた指導方法の改善充実)	○「自分のめあてをもって学習に取り組む、振り返りができている。」と回答した児童85%(12名)以上	・振り返りを次時の個々のめあてに生かし、共有することで「個別最適な学び」と「協働的な学び」を目指す。 ・指導と評価の一体化の実現。 ・授業実践を元にした研修の充実。	A	・児童は国語科を中心に自分でめあてを立てており、そのことによって、主体的な学びにつながっている。 ・指導と評価の一体化の実現に向けて、今後も全教科で継続する。 ・それぞれの実践を持ち寄り、実践ベースで研修ができており、授業改善につながっている。					
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○「いつでも・どこでも・だれとでも『みんなが』を考えた行動ができた」と回答した児童85%(12名)以上	・ソーシャルスキルトレーニングの充実を図る。(日常の学習・生活場面) ・月1回の人権教室の充実を図る。	A	・児童14名中13名(93%)が肯定的な回答をしている。保護者・教職員も100%が肯定的に捉えている。今後も現在の取り組みを継続し、児童の様子を見ながら声掛け・指導していく。					
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○「こまったことやいやなことはすぐに相談できている」と回答した児童85%(12名)以上	・児童が何でも話せる学級経営の充実 ・SOSの出し方教育の推進 ・SCを中心とした教育相談体制の充実。 ・いじめ防止基本方針を周知徹底し、迅速かつ組織的対応の徹底を図る。	A	・児童14名中、12名(86%)が「相談できている」と回答。2名が「あまり当てはまらない」と回答している。こころのアンケート等を活用して、子どもの気持ちに寄り添った取り組みを継続していく。					
	●◎児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒85%(12名)以上 ●◎「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒85%(12名)以上	・学校行事や学級経営の中で、一人一人に出席・役割を与えて承認し、自己肯定感を高める。 ・良いことをしたり、がんばったりした児童にシールを渡し、貯まったら表彰する「スターシール」の活用 ・地域行事と連携した「ふるさとを誇りに思う教育」の推進 ・授業や学校行事等を通して、夢や目標について自ら考えさせる時間や場を設ける。	A	・職員が「ほめて認める」取組を継続して行うことで、児童全員が「先生はあなたのよいところを見つけてくれている。」と感じている。(100%)それが励みとなりさらなる行動へとつながっている。今後も自己肯定感を高める活動を継続し取り組んでいきたい。					
●健康・体づくり	●「運動習慣の改善や定着化」	●授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間で420分以上の児童生徒60%(9名)以上	・県保健体育課実施のスポーツチャレンジの種目の中から全校で「8の字」「ドッジボールラリー」の2種目にエントリーし、目標を設定した長期的スパんで取り組む。 ・屋休みに体育館を開放する等、運動しやすい環境を整える。	A	・授業以外での運動時間が420分を越えている児童が12名以上である。登下校や全校剣道に加え、スポーツチャレンジに取り組むことで学校のカリキュラムでも進んで体を動かすことを推進している。 ・屋休みに進んで友達を誘い、運動をする児童が多い。					
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・事務処理の時間の捻出とその実施 ・「業務改善・働き方改革」のための議論の場を年間2回設定する。	A	・職員10名中9名が時間外在校時間が月45時間以内であり、4月～9月の時間外在校時間は平均すると約28時間であった。水曜日以外の放課後はできるだけ話し合いを入れずに教材研究等の時間に充てることができた。7月に業務改善委員会で内容を吟味し、改善につなげていきたい。					

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
○	○保護者・地域と協働した持続可能な取組としての山村留学の改善・充実	○「やまばと山村留学は、持続可能な取組として改善が進んでいる」と回答した保護者90%以上。	・実行委員会(地域、保護者、学校)で、山村留学のあり方についての議論を重ね、取組内容を整理して持続可能な取組となるようにしていく。	A	・昨年度から短期・長期ともに山村留学を再開したが、全てを元通りにするのではなく、必要なことと削減できることを整理して実施している。また、山村留学行事は内容・時間ともに削減し、全員が取り組みやすいように改善している。その結果、「やまばと山村留学は、持続可能な取組として改善が進んでいる。」と回答した保護者は100%だった。今後も持続可能な取組として改善をしていく。					

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・ 次年度への展望	・ ・ ・
--------------------	-------------